

日本ボストン会会報

発行所 日本ボストン会事務局

ボストンで学んだ成功する条件

副会長 近藤 宣之

幸運は神への感謝から

1984年から1992年末まで、足掛け9年、ボストンに駐在しましたが、この間、日本人会の副会長、Japan Society of Boston のEVP、ニューヨーク日系企業懇話会代表等をさせていただきました。Japan Society では、Business Advisory Board のメンバーとして会合に出ていました。

そのとき米人仲間の一人から、米国で成功する条件をどう思うかと聞かれたので、1. Health、2. Competence、3. Hard Work だろうと答えたところ、それだけならいくらでもいる、それだけでは成功するとは限らないと言われました。

良いご縁、幸運に恵まれることがもっと重要な条件だ。生かさせていただく、仕事をさせていただくということで、神に感謝することが大切だとの説明でした。その感謝への具体的な証として、喜んで、ホームレスの人たちに食事の提供を初めとするボランティア活動や寄付等をしているとのことでした。

しかし、神への感謝が全ての成功への基本と言う視点は、日本人として、馴染み難いものでした。

“There is no way to happiness.”

その後、別の機会にアメリカ人牧師から聞いた言葉があります。

“There is no way to happiness. Happiness is the way.”
でした。

幸福とは何か？どうしたら幸福になれるのか？人生の満足とは何か？何のためにこの世に生まれ、何のために生きるのか——？と言う問いにこの一言が答えているのかもしれないと気づきました。

お金が出来たり、出世したところで、幸福になれるとは限りません。他人と比較してまだまだと思うでしょうし、何か条件が満たされて幸福になれるわけでもないでしょう。

“There is no way to happiness.”とは、幸福になるための、普遍的な道もなければ、一般的な条件もない、こうなったら、幸福になれるよ、ということはあるえないことを意味していると、理解しました。

“Happiness is the way.”は、英文としてなかなか難しい。前の言葉を受けての、“the way”とは、そうした幸福になりたい、成功したいと思って努力する過程、生きていくプロセス、日々の生活の場での実践そのものでしょうか。

“Happiness is the way.”とはそうした日々の実践の中に、幸福があるのだ、人生の達成感があるのだ、と解釈しています。

病に冒されても、生き抜く希望をもって日々感謝して生きる人と、健康でも、不平不満をもって日々の生活を生きる人のどちらが幸福なのか、個人の価値観によっても変わります。

人は、偶然ではなく、何らかの意味をもって生まれたのかもしれない。

そうだとすれば、生命が尽きるまで、心からの感謝をしつつ、自分(魂)を磨くことで、人生の役割を果たせるのではないのでしょうか。

2010年日本ボストン会イベント

- | | | | |
|-----------------------|---------------|-----------------------|-----------|
| *お花見の会(千鳥が淵) | 4月4日(日) | *総会・懇親会(NEC三田ハウス芝クラブ) | |
| *親睦ゴルフ会(川崎国際生田緑地ゴルフ場) | | | 11月19日(金) |
| | 4月15日(木) | *紅葉狩り | 12月4日(土) |
| *美術の会・歴史を飲もう会 | 4月24・25日(土・日) | | |

日本ボストン会観桜会

恒例の日本ボストン会の花見の会を下記の要領で開催します。

今年も夕方の桜を楽しみたいと思います。知人をお誘いの上ご参加下さい。HCJの方もお誘いしています。

申し込み締め切りは3月29日にします。

開催日： 2010年4月4日(日)午後6時

集合場所：千鳥が淵、ポート小屋乗り場付近、
三井アーバンマンション前。

(地下鉄「九段下」駅下車、2番出口から徒歩10分)

散策ルート：千鳥が淵→靖国神社→武道館付近
自由散策

懇親会： ホテルグランドパレス(午後7:00～8:30)
レストラン「カトレヤ」

電話 03-3264-1111
千代田区飯田橋1-1-1

参加費用 お一人：6,000円。会費は事前送金で
お願いします。当日払いの方は釣銭不要でご協力下さい。
費用振込み先：

申込先： 幹事 生田英機

ゴルフ懇親会の報告・案内

日本ボストン会の平成21年秋季ゴルフ懇親会は11月27日(金)に川崎国際生田緑地ゴルフ場にて、開催されました。

当日は最高の天気で、女性からは、半袖シャツを持ってきていたらよかったとの声が漏れるほどでした。

優勝は當間きよみさん、佐々木杯に名前を刻むこと、二度目の快挙でした。グロス104、HC29 ネット75。

次回の懇親ゴルフ会は4月15日(木)に以下の要領で行います。

日時： 4月15日 午前8時33分インコース
スタート

場所： 川崎国際生田緑地ゴルフ場

費用： 16,000円チェックイン時に各自現金支払い。

参加費： 4,000円(参加費・賞品代)

申込数： 16名(申し込み順で、一杯になり次第締め切ります。)

集合： 午前8時15分。10番ホールティグラウンド周辺。

幹事連絡先： 山崎恒

近況報告

茂木賢三郎

昨年は総会にも出席できずご無沙汰申し上げましたが、皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。

さて、昨年6月の株主総会においてキックマン(株)取締役副会長を退任、非常勤相談役に就任いたしました。長年お世話になり厚く御礼を申し上げます。

7月1日から文部科学大臣の発令を受け、独立行政法人日本芸術文化振興会の理事長に就任いたしました。当振興会は、伝統芸能および現代舞台芸術振興と普及、演技者の養成、調査研究等を使命とし、国立劇場等を統括する法人であります。

芸術文化は国家と民族の誇りを守る上で極めて重要なものでありますので、企業経営に関するいささかの経験を活かし当振興会の使命達成のために努力したいと考えております。

皆様方からのご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

追記

茂木賢三郎顧問から、国立劇場の3月花形歌舞伎公演「通し狂言金門五山桐(きんもんごさんのきり)一石川五右衛門」(中村橋之助・中村扇雀出演)の御案内をいただきました。

今回は予約申し込みまでの時間的な余裕が5日しかなく、幹事間で連絡できる範囲の方から20人の申し込みを集めました。

定期コンサートの御案内

第3回日本ボストン会定期ホーム・コンサートと懇親会を下記のように楽しく開催しますので、お誘い合わせの上、お出掛けください。コンサート前の付近の散策も一興です。

日時： 3月14日(日)午後3時開演 5時から
懇親会

場所： 大田区田園調布4-11-6 関宅

出演： ホルン 笠原慶昌
ピアノ 新井彩香
ヴァイオリン 関 尚子

会費： ¥5,000(高校生以下¥4,500)

申込： 音楽の会幹事 関 直彦・尚子

詳しくは別紙チラシをご参照ください。

美術の会・歴史の会

名古屋ボストン美術館の見学と伊勢神宮の参拝

2010/01/29

美術の会 幹事 酒井

歴史の会 幹事 三好

1. 日程

- 4月24日(土) 正午 名古屋ボストン美術館(金山駅隣接) 1階ロビー集合
見学後、鳥羽市へ移動
宿泊 「サン浦島悠季の里」(鳥羽駅より送迎バス)
- 4月25日(日) 伊勢神宮参拝(外宮、内宮)
午後3時頃現地で解散

2. 費用概算

①交通費とホテル代(東京都区内発での料金)

(a) 交通費(JR)とホテル代:東海ツアーズの快速みえ号プランを利用

2人部屋利用の場合(週末宿泊) 43,500円(一人当たり)

(b) ホテル代みの場合(ジパング会員でJR切符を別途購入の方など)

2人部屋利用の場合(週末宿泊) 26,100円(一人当たり)

註:2人部屋から5人部屋までがあり、人数が多いと割引きがある。

②名古屋ボストン美術館入場料

一般者 1,200円(インターネット割引有り) 900円(シルバー割引)

③その他

伊勢市周辺の交通費(バスと近鉄) 未調査だが数百円と想定。

昼食代金(各自払い)

3. 参加申し込み

参加希望を申し込まれた方に旅程計画をお知らせします。E-メール・アドレスをお知らせ下さい。

①参加の受付

参加希望者は3月20日(必着)までに下記について幹事に連絡ください。

- ・参加者氏名、電話番号。
- ・部屋の区分(2人部屋から5人部屋までのどれかを指定)
個室は無いので単身での参加者は相部屋での利用(3月末までに部屋割り決定)。
- ・往きのJRの列車番号と乗車駅(東京、品川、新横浜)
- ・帰りのJRの列車番号と下車駅(東京、品川、新横浜)

②旅行日の3週間前以降(4月4日)でのキャンセルはペナルティがかかる。

キャンセル料は旅行日が迫ると高くなる、参加者には詳細を別途お知らせします。

問合せ先: 酒井一郎
三好 彰

紅葉狩り (2009年12月5日)

旧古河庭園探訪と懇親会

前日からの天気予報では、当日は曇り、午後から雨になるとのことであった。

東京メトロの南北線「西ヶ原」駅から駒込方面に本郷通りを約7分歩くと、右側に旧古河庭園の入口に到達する。集合時間は午後1時半、当会会員19名がほぼ時間通りに集まってきた。

6組の夫妻参加(藤盛、酒井、吉田、三好、俣野、関)と個人参加7人(吉野先生、生田、幸野、鶴夫人、法眼夫人、篠崎夫人、水野)の面々であった。

本郷通りに面した入口の左手に管理事務所があり、入園料(一般150円、65歳以上は70円)を支払って中に入る。石造りの洋館(大谷美術館)が馬車道の前方左手に見えるが、まず先に3万平方メートルの邸内をゆっくり散策するように作られていた。

邸宅は入口(現在)から裏門(昔の正門)まで馬車道が屋敷の回りを半周する形で作られており、入るとすぐ左手に綺麗な芝生の庭がある。その入口から芝生に沿った道を左に歩くと、道は二手に分かれ、右の少し険しい自然石で築かれた小道を辿るが、思ったより険しく、高尾山の下り道を思い起こすほどであった。崩石積みを左手に、大滝を右手に眺めて茶室脇を下ると心字池に達する。

池に沿って歩く。左手を見上げると見晴台と十五層石塔が目に入ってくる。その下に山水の景観を表現すると言われる水のない枯滝があり、右手には大きな雪見灯籠が池畔に置かれている。道なりに歩くと周囲の紅葉が綺麗であり、池を半周する。この和風庭園は京都の著名な庭師、小川治兵衛の手になるものである。

道が交差する角で、左手にあるツツジの間の急な小道を登ると、突然、石造り洋館(大谷美術館)が正面に聳える洋風庭園に辿り着く。テラス式に作られた庭園は見事で、もしバラが満開であれば、素晴らしい光景を満喫できる風情であった。

石造りの洋館(大谷美術館*)内部の参観は予約制で、我々は午後2時30分から約1時間、玄関で入場料を支払い、靴をスリッパに履き替え、身の回りのバッグなどは管理者に預けて入館し、ゆっくりと解説つきで館内を見ることができた。ほぼ1時間を掛けて見て回ったが、古河家三代目御曹司の古河虎之助が薩摩の西郷家から嫁を貰った新居が、大正初期の庭園の原型を留める存在として旧古河庭園と旧古河邸本館が国の名勝として平成18年に指定された。(*☎03-3910-8440)

ここは江戸時代には牡丹園として知られていた。明治になり陸奥宗光の屋敷となっていた。彼は日清戦争(1894~95)の時に外相として活躍した。古河財閥創始者古河市兵衛は支援者で、陸奥の死(1897)後この土地を譲り受け、陸奥の次男潤吉を養子に貰い、鹿鳴館を設計したイギリスの建築家ジョサイア・コンドルが洋館と洋風庭園を設計し、大正3(1914)年に着工、同6(1917)年に竣工した。英国貴族の邸宅にならって天然スレート葺きのレンガ造り、外側は伊豆真鶴産の赤味を帯びた小松石で覆われている。

この建物には全館暖房の配管がなされ、1階には来客用の洋室として大理石造りのマントルピースが設けられ、サンルーム、談話室、会議にも使用される広間、食堂とこれに隣接して調理場が設けられている。2階には当主家族の和室の居住区を構え、お湯はボイラーから2階に作られた風呂に汲み上げられ、客を泊める一部屋と家族の寝室・居室・子供部屋、そして仏壇までが作られている。二階から眺める景色は武蔵野の高台にあるだけに洋式庭園と言い、富士山・丹澤から秩父への遠景は素晴らしいものがある。ただ、当主が住んだのは大正年間だけで、あとは他に居を移されたと聞いた。暖房も石炭ボイラーを2日間焚かないときかないとのことで、利用具合に不便があったと推察される。戦前は古河財閥のクラブとして使用されて、折々の庭の風情が活かされていた。戦後は進駐軍に接収され、英国将校宿舎として利用されたが、現在は国の所有となり、テラス式庭園と洋館は、それぞれ別の管理者が管理にあっている。(庭園:東京都公園協会 文化財庭園チーム、☎03-3910-0394)。

大谷美術館を出てくると、予想通り雨が降り始め、本郷通りを地下鉄南北線の「西ヶ原」駅まで歩き、南北線で「麻布十番」に向かう。そこから六本木の芋洗坂まで約十数分、普段であれば何の支障もないが、坂のたもとの北欧家庭料理・スウェーデン料理のリナ・ダーラーナ*まで、強い雨の中の移動となった。(*☎03-3478-4690)

水野さんご推薦のこじんまりとした店は2時間貸し切りとなり、鶴夫人のご挨拶で開会し、飲み放題で、北欧料理を堪能した。最後は、幹事の準備したクイズは旧古河庭園、大谷美術館、函館、紅葉にまつわる問題が出題され、函館のお土産が賞品として提供された。

素晴らしいお料理を堪能した後、小止みとなった中を新名所になった六本木ミッドタウンまで足を伸ばし、庭園に飾られたクリスマス・イルミネーションを巡り、午後7時半頃現地で解散した。

当日お世話になった藤盛夫妻、水野さんのお手配とご配慮に感謝をいたします。(俣野善彦記)



紅葉狩り(平成二十一年十二月五日)
於旧河庭園 (敬称略)

関直彦

生田英機

三好彰

三好夫人

鶴夫人

酒井夫人

酒井一郎

篠崎夫人

法眼夫人

俣野夫人

関夫人

幸野真士

吉野耕一

藤盛夫人

吉田夫人

吉田博

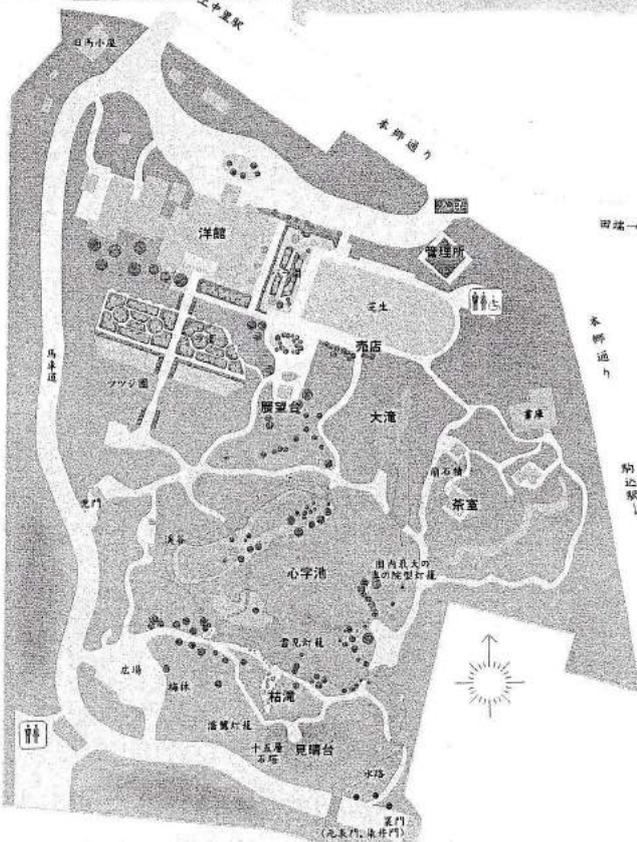
俣野善彦

水野賀弥乃

(写真撮影者 藤盛紀明)

名勝 旧河庭園
Kyū Furukawa Gardens

西洋と日本が調和する、歴史的な名園。



*東京都公園協会文化財庭園チーム作成資料による。



正誤表

会報34号2頁掲載の写真の上段氏名記載の訂正:
(誤) 小坂橋忠志 (正) 棚橋征一

フェノロサ、ビゲロウと法明院(VI)

山口 静一

【19】 道場建設と敬徳の示寂

明治22 (1889)年5月26日、敬徳は月心ことビゲロウの紹介で米国人フォスター (Charles A. Foster, 1850-?, 横浜繋留中の米国軍艦オマハ乗組) に十善戒を授戒し天心の法号を与えています。場所は町田久成の別邸ではなく、寛永寺(天台宗)の子院、上野の護国院でした。

裕福なビゲロウは同年春から、敬徳の東京における伝道教化の場として小石川久堅町(現東京学芸大学付属竹早小学校のあたり)に円密道場の建設を始めていました。円密とは天台宗と真言宗のこと。三井寺(天台宗)ばかりでなく真言密教への関心の深さが偲べれます。フォスターの受戒は、新伽藍未完成のため、護国院の古道場を借りたものでした。

しかし、同年12月24日、体調不良のため日光から戻って療養中の敬徳は、フェノロサ、ビゲロウの懸命の看病も空しく、竣工直前の新道場で逝去。享年56歳でした。

急を聞いて駆けつけた弟子直林寛良(後の法明院阿闍梨敬円、第156代園城寺長吏になった人)によって遺体は大津に運ばれ、法明院墓域に葬られました。元老院議員だった町田久成にとっては、これを機に剃髪し僧籍に入ったほどの衝撃でした。

フェノロサは翌23年6月、契約満期を以って文部省(東京美術学校幹事)・宮内省(帝国博物館理事)を辞任、翌月家族と共に帰国します。同時にビゲロウも帰国してボストン美術館理事に就任、フェノロサは新設日本美術部のキュレーター(5年契約)として自ら蒐集した美術品を管理することになります。

円密道場はその後岡倉天心が校長になった東京美術学校に移築され、職員や学生のクラブとして利用されていましたが、戦後に取り壊され、現在その跡が東京芸術大学美術館になっています。

【20】 フェノロサが育てた仏教者

前述のように市民講座「宗教沿革論」はキリスト教の拡大に対抗する仏教界の強力な助勢となり、またビゲロウと共に始めた仏教研究や美術講演での仏教擁護論は一般市民にも温かく歓迎されましたが、フェノロサは大学の講義でとくに仏教を鼓吹したこ

とはありません。しかし学生の中から二人の偉大な仏教者が現れました。井上円了 (1858-1919) と清沢満之(1863-1903)です。

井上円了は新潟県来迎寺村(現越路町)の慈光寺という浄土真宗大谷派の寺に生まれた人です。新潟英語学校在学中に京都の本山東本願寺に呼ばれ、将来僧侶養成の教師学校教授となるため、給費留学生として東京大学に派遣されました。東京大学予備門(大学と同じキャンパスにあった3学年制の予科)に入学したのが明治11 (1878) 年、20歳。フェノロサの来日と同じ年でした。この年フェノロサは予備門で経済学を兼担していましたが、入学早々フェノロサの警咳に接したことになります。廃仏棄釈の悲劇を体験していましたが、「宗教沿革論」をも当然熱心に聴講したと思われます。

文学部に進学し哲学を専攻した円了にとって、フェノロサのスペンサー、カント、ヘーゲルの哲学講義はまさに眼を開かれる思いでした。語学ができないため、或いは学資がないため大学に入れない人たちに開かれた学校を作りたい、これが円了の切実な願いとなります。

明治18 (1885) 年7月大学を卒業した円了は、俗界に在って布教に努めたいと本山に懇請して京都に戻らず、本郷に私塾哲学館を開き友人たちの協力を得て授業を開始します(明治20年9月)。これが現東洋大学の発祥でした。授業の主体は哲学と政治学と理財学。初期東京大学文学部でフェノロサが担当した学科と全く同様のカリキュラムでした。

明治20 (1887) 年7月帝国大学文科大学(前年3月東京大学文学部改称)哲学科を卒業した清沢満之まんし(旧姓徳永)も、東本願寺から派遣された留学生でした。お寺の生まれではありませんでしたが、縁あって東本願寺育英学校に在学していた人です。予備門を経て明治16年大学哲学科に進学。フェノロサ(明治19年大学退任)には哲学、論理学、社会学、審美学を学んでいます。大学院在学中、哲学館に外向して井上円了を助けましたが、円了とは違って本山に戻り、宗門の教育と改革に生涯を捧げました。仏教における近代的信仰の樹立者として、キリスト教の内村鑑三と並び称される人物です。

明治30年満之は41歳の若さで病死しましたが、晩年真宗大学(現大谷大学の前身)の学監だった頃、二度も三度も「フェノロサ氏を米国から招こうか」と言われたと、これは満之門下の学僧で後に大谷大学学長になった佐々木月樵の回想です。フェノロサの講義は満之にとってそれほど印象の強いものでした。満之と円了とは共に、詳細なフェノロサ講義のノートを残しています。

『フェノロサ、ビゲロウと三井寺法明院 (VI)』

【21】 寺院への寄進 寺宝の保護

ボストン美術館所蔵品のうち、もし日本に在れば間違いなく超国宝級に数えられるのがビゲロウの入手した「法華堂根本曼陀羅」と呼ばれる奈良時代の釈迦如來說法図でありましょう。これは東大寺三月堂(法華堂)の本尊でした。仏像では鎌倉時代の名品「聖観音坐像」、湖東三山の一つ金剛輪寺の旧蔵です。フェノロサも「馬頭観音」「普賢延命菩薩」など美しい平安仏画の数々を購入しています。鎌倉時代の「四天王図」は廃絶した永久寺真言堂(天理市)の障子絵でした。

両人の蒐集目的は将来ボストン美術館を日本美術の宝庫にすることでした。これは明治15年夏、モースと共に蒐集旅行をした時の3人の誓いでした。当時の寺院は廃仏棄釈の嵐に襲われて貧窮を極め、伝来の宝物を手放さざるを得ない状況でしたので、仏像仏画の蒐集は比較的容易だったのです。

しかし当初からこれらの保全を願う気持ちも強かったようで、フェノロサが京都東福寺に寄進して寺宝を修復させたのは明治13年、最初の関西旅行の時でした。明治17年の法隆寺調査の際、ビゲロウはフェノロサと相談し、巨勢金岡筆と伝える破損した花鳥画などを自費を投じて修復させた記録もあります。余談ですがこの年法隆寺夢殿開扉事件があったとされていますが、これは岡倉天心の記憶違いによるもので、法隆寺の記録から推してもフェノロサの証言によっても、明治19年とするのが正しいようです。

明治21(1888)年夏、政府は宮内、内務、文部の三省合同の大規模な関西古社寺宝物調査を実施しました。首班は九鬼隆一。古美術に精通したフェノロサは顧問格で指導的役割を果たしました。調査の様子は連日各新聞が報道しましたが、とくに同行したビゲロウの「義挙」が話題を提供しています。巡回する寺院には「仏前へ種々の美香を供え」、修復を必要とする品には「修繕料として金五十円或いは百円を寄付せし所少なからず」といった具合で、そこには明らかに仏教徒としての意識が窺えます。

援助を受けた寺院が何処であったのか、現在は唐招提寺、桜井市の聖林寺以外は不詳です。フェノロサはすでに明治19年に聖林寺を訪れ秘仏であった「十一面観音立像」(国宝、奈良時代)を開扉していました。同21年6月調査団一行と共に再訪。このとき観音像の御厨子が腐朽しているのを見て、ビゲロウはフェノロサと連名で金50円を寄進し厨子を新造させます。

新しい厨子は秋に完成。火災のとき背後の土間に

容易に引き出せるように設計されていました。現在観音像は鉄筋コンクリートの観音堂に安置されていますが、復元された御厨子が本堂に飾られています。

調査旅行中、同年6月5日フェノロサは奈良三條通りの浄教寺を会場に「奈良の諸君に告ぐ」と題する講演会を開き、またビゲロウは8月17日京都室町の宝錦舎で講演しますが、いずれも市民に仏教文化財の重要性とその保護の必要性を訴えるものでした。

【22】 ボストンへ

帝国大学(明治19年東京大学改称)から4ヵ年契約で文部省(宮内省兼任)に転出したフェノロサは、岡倉天心と一心同体となって欧米美術事情の視察、関西古社寺の宝物調査、東京美術学校の創設という美術行政官としての大任を果たし、明治23(1890)年6月契約満期となって帰国、9月からボストン美術館(MFA)に勤務することになります。勅任官待遇、年俸6000円は各省次官級の給料で、フェノロサとしては当然契約の更新を望んだのですが、美術学校年間経費1万2000円の中からフェノロサの給料を支払うのが美術学校開設の条件であった以上、翌年から校長になる盟友の岡倉天心も、その希望には添いかねる立場にありました。事実フェノロサの去った後7人の専任教官を雇うことができたほどです。

当時のMFAは現在地よりずっと都心に近いカブリ・スクエアにありました。1876年に開館して以来富裕市民の寄贈、寄託によってコレクションは次第に増強され、とくに日本美術の発展は目覚ましいものがありました。MFA寄託を条件にウエルドに譲渡された旧フェノロサ・コレクション、ビゲロウの寄託品・寄贈品など3000点余りの絵画を管理するため、新たに日本美術部を開設することになり、フェノロサがキュレーターに指名されることになったのですが、日本美術部新設もフェノロサ指名も、実はビゲロウの影響力によるものと考えられます。ビゲロウの父(Henry Jacob Bigelow)はハーバード大学医学部教授でMFAの理事でした。ビゲロウ自身も父を継いで1890年以来終生理事としてMFAへの援助と寄贈を続けました。

MFA理事会とは5ヵ年契約、年俸2500ドル。キュレーターとして特に安い給料ではありませんが、当時の為替レートからすれば2800円、日本での俸給の半額以下でしたが、収藏品解説目録の作成、相次ぐ企画展の開催とその目録執筆、館内外における講演と執筆活動、と精力的に仕事をこなしていきます。(続く)

(埼玉大学名誉教授、前名古屋ボストン美術館長)

美術の会

Rogier Vander Weyden (1400~64)

Hotel Dieu, Beaune (France)

二度目の旅(12/1~1/6, 2010)は新たな出会いが待っている。二度目の Lyon ではまさにそれを体現する人々そして美術品に触れることができた。

都市 Lyon を見下ろす現代風のアクロポリス Fourviere(フルビエール)の丘の上のバシリカ風教会堂は変わらぬ美しさで迎えてくれた。坂を下って行くと、そこは Old Lyon, そこにあるトラブール(抜け道)、それは家のなかの通りから又他の家の中の通りを通して違う建物へ通り抜ける。知人の案内が無ければ迷ってしまう。ルネッサンス期のこの建物の通りに又今回も驚きいる私である。

Lyon から車で15分の所にある Grezieu, そこからさらに車で2時間、ブルゴーニュ地方“黄金の丘”の中心地 Beaune(ボヌ)を尋ねる。その中心街に Hotel Dieu (ホテル・デュ)がある。

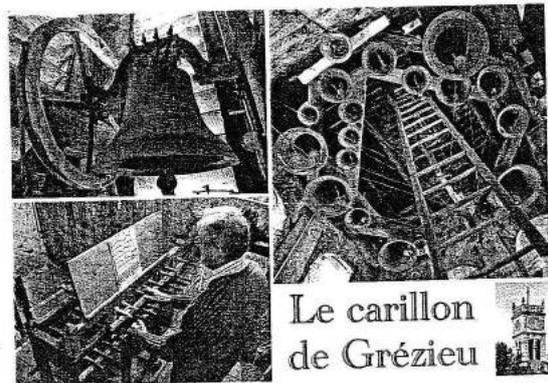
1443年、ブルゴーニュ公爵フィリップ・ル・ボンの宰相ニコラ・ロランによって建てられた貧しい人々のための病院、この Hotel Dieu はゴシック様式のファサードを持ち、中世のブルゴーニュ地方の美しい建築物として保存されている。院内の出口近くの部屋、聖ルイの部屋に入ると、ロランに制作を頼まれた北方ルネッサンスの画家 Rogier Vander Weyden 描く衝立画“最後の審判”(1442-51)に会うことができた。中央部が高くなった横長の画面に“最後の審判”の情景が目を驚かせる。眩しいほどの紅色の光が画面一杯に広がる。慈愛に満ちた眼差しの聖マリアはより人間的に描かれている。

足しげく通った Boston 美術館の Weyden 描く“聖母を描く聖ルカ”(1435)は画家の守護聖人ルカの姿を仮託し、画家自身の姿が描かれている様であ

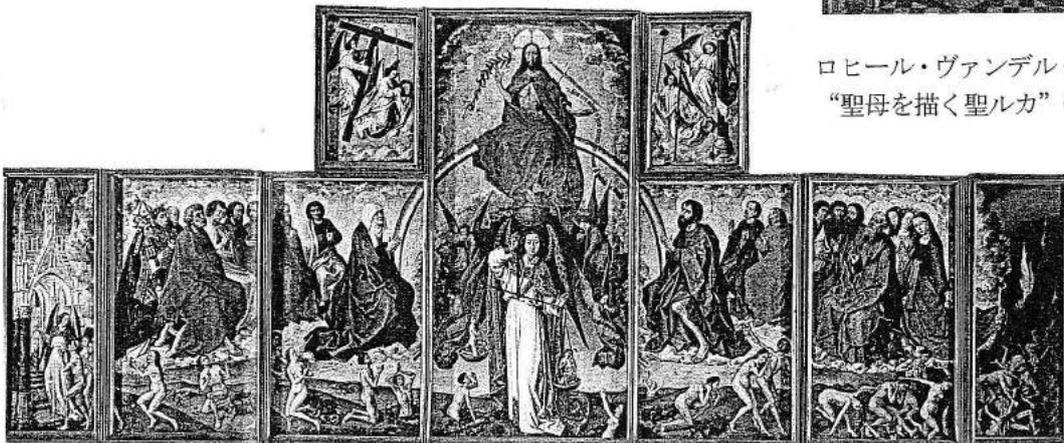
る。椅子に座り乳を与える聖母の姿は、市井の女性の様に自然であった。

北方ルネッサンスを代表するもう一人のブルゴーニュ公に仕えた画家“Jan Van Eyck”(1390~1441)は“宮廷の聖母”を描き、Weyden は“謙遜の聖母”を描いたと言われた。(つづく)

酒井典子



ロヒール・ヴァンデル・ヴァイデン
“聖母を描く聖ルカ”(1435)



ロヒール・ヴァンデル・ヴァイデン(Rogier Vander Weyden) “最後の審判”(1442-51)

投稿

帰国と戸惑い

顧問 吉野 耕一

45年間のボストン生活後、帰国永住となった今、税金等日本定住のための戸惑い、失敗などを会報に寄稿することを依頼されていた。米国の税金は4月半ば、日本では3月なのでまだ先のことと思っていたところ、幹事会(1月29日)で税金抜きの記事を2週間以内に書けと依頼されました。

①賃貸住宅：

家内の妹家族が工場跡地に中型マンションを建てる計画し、帰国の足がかりとして建築計画中に一番好条件の、部屋を借りることにした。いまだ建築中にマンション運営会社に契約に必要な書類を質した。

住民票、印鑑証明、保険証、銀行口座等が示されたが、我々はいづれも所持しない。幸いマンション所有者の保障で契約できたが、普通に帰国した場合にはどのように処理されるのか気になった。

②住民登録、後期高齢者医療保険、介護保険：

長く外国に住んでいた際、住民登録は本籍地に置かれていた、帰国後本籍地の証明をとり、住民登録を現住所(江東区)に復元するのは簡単に済んだ。

指示に従った保険証の手続きで頓挫した。保険料は前年末の税金で計算とか、その提出を求められる。勿論帰国者には日本での税金納入の記録は無い。後期高齢者に近い担当者はなすすべも無く、しばらくして若手の係員に引き継いだ。

結局アメリカの年金(Social Security)を基準にすることになった。後に、まだ納税記録がないので、現役で働いている同級生に比べて低い負担と知った。

③東京都シルバーパス：

住み着いた江東区北砂は近くに電車の駅が無く、都バスを使うことになる。江東操車場に後期高齢者保険証を持ってパスを貰いに行く。後期高齢者に近い担当者が前年末の税金の証明者を要求、それが無いことを理解させるのにかなりの時間をかけ、電話で本部と話し、私の答えの取り次ぎ時間ばかり過ぎていった。最後に事務室の中に呼び入れられ、本部の担当者と直接話して、税金納入額によってパスの料金が年千円か、2万円になり、納税額証明書の無い帰国者は後者に該当するとのこと、これだけのことで1時間ほど過ごした。

④運転免許証：

近くの警察署に運転免許証の発行に必要な書類等を聞きに行く。若い女性が対応したが、直接の回答は無く、電話で外部と相談しながら質問してきた。パスのこともあったので、直接話をするべく申し出ると、直ちに電話を渡してくれた。有効なアメリカの免許証、免許証の翻訳(JAF)、本籍地明記の住民票、写真、旅券、あれば古い日本の免許証が必要とか。数日後、全書類を整えて江東運転免許試験所に行く。

先ず問題になったのが、マサチューセッツ州の免許証には発行日がないこと、外免の場合ある特定の期間、外地で運転経験が必要で発行日が無いことはその証明にならない。担当官は私が40年以上もアメリカで運転していたことを疑わないが、ファイルに入れる書類がないので受付できない。マサチューセッツ州からDriving Recordを取り寄せることを求められた。インターネットで簡単に受け取ったDriving Recordには発行日等はいっさい記載せず、簡単に過去10年間無事故、規則違反無し証明だけであった。担当官はDriving Recordを前に考え込んでいたので、横から10年間の記述を指摘して、少なくとも1年以上は運転していることの証明になることを納得させた。書類確認、納金、視力検査、写真撮影を経た後、1時間近く待たされてからやっと免許証が手渡された。

マサチューセッツ州では以上のことを担当官一人で行い、当日は仮運転免許証を渡し、本免許は後で郵送される、本人の住所確認にもなる。

⑤シルバー割引：

色々な割引を利用しているが、証明には後期高齢者医療保険証を求められる。保険証を持ち歩かない私が日本国旅券を示すと、先ず受け付けてくれない。

東京都シルバーパスを見せると、先ず通用する。なぜ、写真の付いた旅券が駄目で、写真の無い保険証等が有効なのか分からない。トロントのTV塔の割引が65歳だった時、思わず来年来ればよかったと囁くと、割引料金で入れてくれたのと大違いであった。

投稿

言葉と文化 (I)

法眼 健作

侯野さんから手紙を頂戴した。「会報にエッセイを書いて欲しい。言葉の重みについて論じてもらいたい。」というお手紙である。おそらく最近の政治家の言葉の軽さからこのようなご依頼になったのだろうが、もとより私にはそのような観点から論じる資格もなければ、用意もない。ただ、言葉という点に準拠すれば、全く別の観点からではあるが、私は日頃から「その国民が使う言葉がその国民の精神生活、人間性、国家観、ひいてはその国民の音楽にまでどのような影響を与えているか」という点について私なりの見解を持っている。丁度良い機会であるから、数回に分けて論じてみたい。

まず、ペルシャ語である。ペルシャ語を用いるイラン人は誇り高く、容易に妥協しない人達である。私はイランに在勤中、何故このように頑ななのだろうかと考えた。そして得た結論はペルシャ語にその因があるということである。

ご承知のとおり、ペルシャ語はラテン語、ギリシャ語の先生である。だから現代のフランス語、ドイツ語、英語等のルーツもペルシャ語にある。私はテヘラン在勤中一所懸命勉強し、西欧の言葉、数、文法等の面でペルシャ語が及ぼしている例に直面し、感動すら覚えた。

一つの分かり易い例をあげよう。我々が英語を習う。数を覚える。十二は TWELVE だと教えられ、これが一つの単位となると ONE DOZEN となる。ここまでは良い。そのうちにフランス語をやるようになると「アー、この DOZEN はフランス語の DOUZE (12) から来ているのだ」と知り、一段上に昇ったような気分になる。ほとんどの人はここで終わる。

ここでペルシャ語である。DOUZE はペルシャ語の十二(これがラテン語文字表示だと)DOVAZEDA となる。つまりペルシャ語の十二と言っているのである。これはシンプルな例であるが、他にも例は限らない。要するにペルシャ文明を継承するイランには「我々こそ世界文明の中心」との自負があるのである。

中央アジア、中近東、アフリカにペルシャ文明の影響が及んでいることは周知のことだが、西欧諸国において文明、文化の根幹となる言葉・言語がペルシャに源があるとすれば、イランという国が「もっと我々のことを評価しろよ」との思いを持つことは理解できる。書きたりないが、今回はこの続編、そして英語と日本語の類似性、その次また次には日本語と音楽について論じてみたい。

投稿

オバサン 2度目の語学留学

井上 恵美子

昨年9月、ケンブリッジ市・ハーバード・スクウェアにある語学学校(NESE)にて、4週間学んでまいりました。

10年前も完璧なオバサンでしたが、今回は頭の回転速度は十分の一、顔のシワは10倍となり、“今、来て良かった!! 1年後では遅すぎた!!”と、最年長生徒であろう私は、幾度となく自身の蛮勇?に拍手?したものでした。

ボストンはちっとも変わっていませんでした。授業のスタイルは以前と驚くほど同様で、講師陣の中にも懐かしい方々を見つける事ができました。

どきまぎオバサンにとっては、容易に勉学生活に勤しむことができ、学校の選択は正しかったと安堵したものでした。ハーバード・スクウェアの店舗の相当数は健在で、殆ど私の記憶にあった景色のままでした。東京に暮らす私にとって、その変わらないさまは不思議さを覚える程でした。壊しては建て直す日本の文化と、アメリカのそれとは異なるのでしょうか?それとも、ボストン・ケンブリッジという歴史と伝統の学園都市の独自性に由来するのでしょうか?どなたか、ご回答いただければ幸いです。

一点だけ驚愕?の変化がありました。それは、無料Wi-Fi (Wire-less Fidelity) の拡充でした。日本でも空港・駅等の施設で一部、少数のカフェで無料公衆無線LANサービスが受けられつつあります。ボストンでは、小さなカフェでもFree・Wi-Fiのボードが入りに掲げられていました。

語学学校の生徒たちは母国から持参のノートPCを使い、寮・ステイ先でWi-FiでSkypeを通して、無料国際テレビ電話を楽しんでいました。また台湾の生徒は携帯で、韓国の生徒は固定電話で母国と無料通話できるとのことでした。変わらぬ風景の中、ネットワーク構築は学園都市だからできたのか?日本の通信事業は?答えを模索した4週間でした。

毎日のように午前2時近くまで、3科目の予習復習に追われ、10年前(3ヶ月間)以上に観光の暇がありませんでした。無事授業終了の翌日、友人3人をローガン空港に出迎え、ボストン3泊・アムトラックでNYに移動し3泊の1週間で、やっと観光を味わえました。また、その間は友人たちのツアーガイドとして、僅かな勉強の成果を感じることができた日々でした。来年、また蛮勇をふるって挑戦したいものです。

投稿

久米生光^{なり}氏の死を悼んで

酒井一郎

昨年(2009)の11月13日、久しぶりに名古屋在住の久米さんに電話をかけたところ、奥様が電話口にお出になり、「主人は9月29日に亡くなりました」と言う衝撃的なお話を聞かされました。

いつも、にこやかで、人を楽しませてくれる活発な久米さんしか知らないの、一瞬息を呑み、啞然と奥様のお話を聞いてしまいました。

1999年7月に日本ボストン会、美術の会としてオープンしたばかりの名古屋ボストン美術館訪問をきっかけにして、知り合ったのですが、音楽と客船でのクルージングを愛し、楽しまれた方でした。

音楽では、名古屋でボランティア団体「トラッツフォーム」を主宰し、地元の「若手有望音楽家」を育てることを目的として活動され、オペラ、シャンソン、ジャズに始まる声楽家、ピアノ、バイオリン、チェンバロン、チェロ、フルートの演奏家など幅広く音楽家の卵が集まっていた様です。

名古屋ボストン美術館に、過去4回訪れ、その夜のディナーの後、カクテルなど飲みながら久米さん企画のミニコンサート、久米さんに声をかけられた若手音楽家の演奏(ピアノ、バイオリン、ファゴットの独奏、協奏)久米さんのお嬢さんを含む3人のコーラスなどで名古屋の夜をボストン会の皆様と共に、楽しませていただきました。

クルージングの会を幹事として担当され、会報に2度ほど寄稿してくださいました。一度はご本人自身が豪華客船クリスタル・セレニティに部分乗船し、グアムから横浜までの船旅とクリスタル・セレニティについて語ったものでした。久米さんは、「船旅の魅力は、未知への遭遇、自然とのふれあい、新しい友との出会いである。」と言っておられました。

クリスタル・セレニティ、クリスタル・ハーモニー、クリスタル・シンフォニーが横浜港に寄港した際には、船内見学、ランチに招待していただきました。

この様に、人を楽しませ、自らも楽しむ快活で多彩な趣味を持つ人でしたが、何と普段は、牛毛神社の神主さんで、亡きお父上は、氷上姉子神社の宮司をされ、1300年前、熱田神宮が創建された時に、三種の神器の一つの草薙の剣を献上したとされている名家であります。68歳と若くして旅立たれましたが、今は静かにご冥福をお祈りいたします。

合掌。

2009年度総会報告(追加分)

*京都ボストン交流の会(ジャメッツ登三子さん)
(沿革)京都市とボストン市は1959年に姉妹都市となり、2009年度は50年になる。提携以後、両市は青少年使節団の相互派遣、音楽・美術交流、文化交流など、親密な交流を続けている。姉妹都市20周年にあたる1970年、京都がボストンに寄贈したボストン子ども博物館の「京の町家」は、今もボストンの人々のみならず、全米の人々に愛され親しまれている。

1997年に「京都ボストン交流の会」が発足し、市民レベルの友好交流・相互理解に努めている。

(報告) 京都ボストン姉妹都市提携50周年記念事業(2009年度)として、京都、そしてボストンでも次の催しが行われた旨、報告された。

- ① 日米青少年野球交流プログラム歓迎レセプションと交流試合開催。(今年はボストンから少年団来訪。
8月6日 レセプション(新島会館大会議室)
8月8日 交流試合(西京極総合運動公園)
- ② 京都市代表団ボストン訪問、8月24~30日
京都市長、市議会議長他ボストンを訪問、ボストン市長主催の記念式典等に出席。
- ③ 大人用浴衣の贈呈
長刀鉾保存会と長刀鉾祇園囃子保存会より祇園祭にて着用された浴衣を寄贈頂き、帯・腰紐を交流の会で購入の上、京都市代表団がボストン訪問の際に贈呈。
- ④ ボストンの夕べの開催
10月3日(土)18時より20時、京都駅室町小路広場
- ⑤ ボストン・チルドレンズ・ミュージアム Kyoto プログラムを11月22日(日)元春日小学校(河原町丸太町)にて開催し、8月3、4日ボストン子ども博物館において開催した同行事の報告。
- ⑥ モード・ジャポニズムー浮世絵と日本の髪型ー
2010年3月15日ウイングス京都・イベントホールにて開催し、10月16日ボストン・シンフォニーホールにおいて開催した同行事の報告。
- ⑦ 「花習塾 能公演」(京都市後援事業)をボストンでは9月20日(於ジョンハンコックホール)。京都では9月26日(於京都市北文化会館ホール)にて開催。

第66回幹事会

日時:2010年1月29日(金)午後6時半~9時

場所:新宿サミットクラブ 22名出席

*鶴正登会長挨拶、ご挨拶。

*茂木賢三郎顧問、日本芸術文化振興会理事長就任のご報告と3月花形歌舞伎公演「金門五山桐石川五右衛門」の観劇案内を頂く。(別項参照)

*山村前会長の顧問就任を承認。

*吉田博氏のHP担当の幹事就任挨拶。

*事務局報告:新入会員なし。

:*HCJapanと連携:観桜会への参加を呼掛ける。

*次回幹事会:2010年6月18日(金)。

日本ボストン会2009年度総会報告

日時：2009年11月13日(金)午後6時半～8時半

場所：NEC三田ハウス芝クラブ

議事：会長挨拶、会員紹介、活動報告、会計報告。

出席者：43名。

遠隔地参加者：京都・ジャメンツ登三子。

会員紹介：北代淳二、中埜紀子、木村夫人、

宮内智久、佐藤信雄。

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

日本ボストン会の総会は定時に、近藤宣之副会長の司会で開会しました。

まず、鶴正登会長から、山村章会長のご都合で辞任のお申し出があり、幹事会にもお諮りした結果、残り任期1年間を担当することになった旨のご挨拶があり、現在ハーバード・クラブ・オブ・ジャパン(HCJ)主催の“ジャズのタベ”が11月28日夜に開催されるので、当会から11名の方が参加される予定であるとのご報告がありました。一方、当会の集いである“紅葉狩り”のプログラムも先方に紹介し、今後交流を図りたいと結ばれました。

乾杯は佐々木浩二顧問にご発声をお願いし、会員のご健康と日本ボストン会の発展を願って杯を挙げ、懇親に移りました。

しばしの懇親と食事の後で、法眼次期会長から、最近の日米関係につきお話を伺った。オバマ米大統領は昨年の大統領選挙で“チェンジ”を訴えて当選し、鳩山首相に同情的である。日本でも、選挙民に“チェンジ”を訴えた民主党が自民党から政権を引き継いだ。米国メディアは沖縄基地問題、インド洋への自衛艦派遣問題で、両国関係の将来に懸念を表明している。これまで両国関係には貿易関係での問題はあったが、安全保障は、国の根幹にかかわる問題であり、極力慎重に取り扱わねばならないとお考えを述べられた。

米国と欧州の関係とは違う。日本側には正常な関係に持つていく努力が常に必要であると思わねばならない。米国が対中国との関連で、日本の民主主義が成熟した成功例として使えるようにしたいのかもしれない。米国が日本を重視していることは明らかである。これに応ずる努力が日本側に求められている。

今回、鳩山首相がアフガニスタン支援にこれから5年間に4～5千億円の協力を申し出ているが、インド洋への自衛艦派遣の年間費用は年百十億円程度で、米国・英国・オーストラリア・パキスタン他から高くその貢献を評価されていることを考える時に、政権維持に疑問視されているカルザイ政権に4～5千億円を出すことは勿体ないと考えざるを得ない。

鳩山首相には国内の論争は水際留め、国際問題では日本政府のプッシュ前政権との合意を尊重する姿勢が望まれる。日米間の関係悪化は、中口を喜ばせることになることを自覚し、日米関係重視の姿勢を確認して欲しいと結ばれた。

この後、初参加の会員が紹介された。

北代淳二氏は井口大使から入会を勧められて入会したと自己紹介され、本年5月6日にフェアヘーブンに寄贈されたジョン万次郎友好記念館開設の募金活動をお手伝いしてきた経緯と、日米交流の原点となったこの記念館で、オバマ大統領と鳩山首相の日米首脳会談が開催されることを願っていると関係者の期待を披露された。今後はこの記念館維持への支援活動が残されているので、引き続きの支援を求められた。

木村夫人は数年前に入会されたご主人に同伴されて、今回の総会に初参加された。

中埜紀子氏は、吉野ご夫妻が帰国参加されると知り、本日参加したと自己紹介された。

宮内智久氏は、ハーバード大学に留学し家族でボストンに滞在した。数年前に参加したが、初出席したと自己紹介。

佐藤信雄氏は当会創設当時に入会していた。今、ハーバード・ビジネス・スクールで交流プログラムを担当。

この後、各ワーキング・グループの活動報告が行われた：

*美術の会(酒井・三好・篠崎幹事)

4月に茂木本家美術館を見学した。27名参加。次回は明年4月24/25日(土・日)名古屋ボストン美術館・伊勢神宮訪問を計画。(別項参照)。

*ボストン日本人学生会の記録報告(三好幹事)ボストン日本人会との関係を調査したいと報告。

*音楽の会(関幹事)5月・7月にホームコンサートを開催。次回は春・秋の2回開催を予定。(別項参照)

*ゴルフの会(山崎幹事)4月23日に川崎国際生田緑地ゴルフ場にて開催、次回は11月27日開催予定と報告。(別項参照)

*山を歩く会・ハイキングの会(幸野・當間幹事)休業状態であるが、ご希望を伺い企画したいと報告。

*京都ボストン交流の会(ジャメンツ登三子さん)京都・ボストン姉妹都市提携50周年事業の報告(次頁参照)。

*観桜会(生田幹事)明年4月に千鳥が淵にて開催(別項参照)。

*吉野耕一顧問(東京に戻られて半年経過)ボストン・レッドソックスの岡島投手のことや、故郷、松山の秋山好古・真之兄弟が登場する「坂の上の雲」(司馬遼太郎作)がNHKTVで放映されるので、応援を要請された。

*事務局:会報は186家族宛に送られたと報告、新会員は4名。

*会計報告:山崎幹事より書面にて報告があった。

| | |
|----------------|------------|
| 収入の部(含繰越金) | 952,892円 |
| 支出の部: | 451,862円 |
| 残高(次期繰越金)(A) | 501,030円 |
| ようこそ特別会計残高(B) | 795,400円 |
| ボストン会資産(A)+(B) | 1,353,930円 |

最後は、酒巻典子さんの指導で、全員で「小さい秋見つけた」他2曲を歌い、恒例の藤盛紀副会長のご発声による一本締めの手拍りで閉会した。(伊野善彦記)